

1月3日 成人式が開催されました

1月3日、すこやかセンター伊野で成人式が開催され、20歳を迎えた348名が成人の仲間入りをしました。新成人は、近況を話したり、写真を撮りあったりして成人の日を迎えた喜びを分かち合っていました。式典では来賓の祝辞を受け、浅川和希さんが、「社会人としての義務と責任を自覚するとともに、今後個人個人が自己完成に努め、地域の繁栄、郷土の発展のため、力を尽くしたい。」と謝辞を述べられました。

また新成人の主張では、筒井昭雄さん、レディングトン可憐ジョイさんの2名が今後に向けての希望や決意を述べられました。(発表内容は次のとおりです。)

教育委員会社会教育課

「成人を迎えて」



筒井 昭雄

本日は私ども新成人のために、このような盛大な式典を開催していただき、まことにありがとうございます。私たちも今日から、一人の大人として、皆さまの仲間入りをさせていただくことになりました。

この場に幼なじみとともに大過なく今日を迎えられたのは、家族、学校の先生方、地域の皆さまが私たちの成長をいつも見守ってくくださったからだと思います。心より感謝しております。

私にとって二十年間の財産は友達との出会いです。幼稚園から大学までたくさんのお友達と出会うことができました。私が楽しく笑っているとき、横を見ると友達の満面の笑顔。悲しくて涙しているとき、振り返ると友達の目にも涙。そして苦しくてどうしようもないとき、手を差し伸べてくれるのも友達でした。

今、問題になっているいじめは、自分より年下の子が死を選ぶという、とても悲しいことです。また、

それを助けてあげられなかった友達や家族もすごく悔しいことだと思います。一番はいじめが無くなればいいのですが、簡単な問題ではないのでしよう。私には縁のなかったことでしたが、それもすばらしい友達に出会えたからです。そのことに感謝し、これからも思い出をたくさん作りたいと思います。

次に、中学校に入学し英語に出会い、私は、英語に対し非常に興味を持ちました。その気持ちは今も変わらず、大学では英語を専攻しています。現代では英語は、非常に必要とされる言語ですが、私たち日本人にとってマスターしづらい言語です。しかしながら逆に、やりがいがある言語だと思っています。中学校三年のときにオーストラリアに行かせてもらいましたが、短い日数だったので、ホストファミリーとのコミュニケーションがとれなままに帰国となり、とても残念に思っていました。もう一度行ってみたいと思っていたところ、去年の夏に、再び短期留学に行くことができました。一度目より長いホームステイをして実際に向こうの生活を体験し、また大学で他の国々の人たちと一緒に授業を受け英語のスキルアップと共に他の国々の人が抱いている日本人に対するステレオタイプや異文化を体験することができました。このように好きな

英語を学ぶことができるのは、自分の道を陰ながら支えていてくれる両親のおかげだと思います。本当に感謝の一言に尽きます。この経験を無駄にすることなく将来の就職などにつなげていきたいです。

私には、旅行案内業者として働きたいという夢があり、このオーストラリアでの経験を活かしたいと思っています。実際に空港などで現地の旅行案内業者の方にお世話になり、流暢な英語で会話をしている姿に憧れ、その思いは日に日に募るばかりです。しかし、今の私の英語の能力では難しいというのが現実です。自分の夢の実現のために一層、勉学に励みたいと思います。

そして最後に大人の仲間入りをしたからには、正しい判断力を持ち、それぞれが強い責任感を持ち、社会を構成する一員となる自覚を持ちたいと思います。

